

多摩市立図書館長 横倉妙子 様

2020年7月1日

多摩市の社会教育を考える会

代表 荒井容子

住所 ■■■■■■■■■■■■

電話 ■■■■■■■■■■■■

**新型コロナウイルス感染拡大に対する多摩市立図書館の
対応方針策定過程（今後も含め）に関する質問と懇談のお願い**

新型コロナウイルス感染拡大のもとで、多摩市立図書館が3月はじめに休館となり、一旦、開館したあと、また長く休館となりました。今、感染拡大を防ぐ規制が緩やかになったなかで、改めて、多摩市の図書館での書籍等の資料の貸し出し、館内入室が可能となり、市民としてほっとしているところです。

感染を防ぐために人びとの接触をできるかぎり避けることが求められるという、多くの人がほとんど経験したことのないような社会情勢のなかで、市民のための図書館をどのように運営していくのか、図書館の運営を担ってくださる立場から腐心され、ご努力されていることに感謝しております。

しかし、図書館の運営については本来、市民の意見をふまえて、また市民の希望を丁寧に把握して決めることが望ましく、たとえ緊急事態であっても可能なかぎり、その過程が尊重されるべきです。それというの、突然の休館、予約資料貸出のみの再開、そして開館後の利用制限等々が、図書館法第7条4にあるように、地域住民との「連携及び協力の推進に資する」ことなく「運営の状況に関する情報を積極的に提供するよう努め」ることもなく決められ、私たち市民はただ図書館の「お知らせ」に従うのみというのがこの間の状況でした。本来図書館のあり方について決める主体である市民がないがしろにされたという気持ちをぬぐいされません。市民にとって図書館は、日々の生活を豊かにし、思考を深める場所であり、とりわけ困難な社会情勢にあっては市民が自立的主体的に考え困難を乗り越えていくためにどうしても欠かせない施設です。そこで厳しい感染症拡大のもとでも、何とか図書館の大事な部分を生かしていきたいと私たちは考えています。そのためには、多くの市民とその認識を共有し、図書館への支持を高め、図書館の館長・職員のみなさんといっしょに図書館を市民の生活の中に生かしていきたいと私たちは考えています。

新型コロナウイルス感染の拡大の危機が再び起こるとの予想も出されています。そこで今後に向けて、緊急事態が起きた時にも、図書館の対応方法については、できるだけ市民と学び合い、話し合う機会を尊重していただきたく、以下の点についてお聞きし、それについて意見交換ができる懇談の機会を設けてください。

- 1 **新型コロナウイルス感染拡大に対応した今年3月はじめ以降の多摩市の図書館の対応の経過と、対応方法を判断するうえで課題となったことを教えてください。**
- 2 **今後の新型コロナウイルス感染拡大に際し、図書館がそれにどう対応していくか、その判断をするための検討課題と、方針を決めるにあたって、①図書館協議会での協議、また、②図書館に関心を寄せる市民との共同の学習と懇談など、市民の知恵を生かす工夫をどのように構想されているか、教えてください。**

以上